

情報公開文書

研究課題名	気管支喘息の重症度評価におけるレントゲンスコアの有用性の検討
所属（診療科等）	国立病院機構舞鶴医療センター 小児科
研究責任者	鶴川 慎一郎
研究機関	この研究は国立病院機構舞鶴医療センター小児科で実施します。 ≪研究協力施設≫ 必要に応じて京都北部の2次医療機関に対し協力を依頼する可能性があります。詳しい研究機関についてお知りになりたい方は下記の「問い合わせ先」までご連絡ください。
研究期間	研究機関許可日～2027年3月31日
研究目的と意義	気管支喘息で入院した小児患者の重症化に速やかに対応するためには、全身状態の客観的・経時的把握とその共有が重要です。気管支喘息発作重症度の評価として有用性が既に確認されているスコアはありますが、いずれも主観的な項目があり評価者の熟練度によりスコアが変化する可能性があります。そこで本研究では、入院時（入院中）の胸部レントゲン写真での肺の透過性・過膨張を客観的評価として設定・点数化し、病態推移を適切に反映する新規スコアを作成し、その有用性について検討することを目的とします。
研究内容	<p>●対象となる患者さん； 2011年4月から2024年3月までに、当院に気管支喘息・喘息性気管支炎の診断で入院され、かつ入院時（中）に胸部レントゲン検査を実施した方。</p> <p>●利用する情報； 患者さんの背景（年齢、性別、基礎疾患など）、検査項目（レントゲン写真、血液検査データ、ウイルス迅速検査など）、治療（薬剤、酸素や人工呼吸器管理の有無など）他入院期間などに関する情報を用います。 本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「問い合わせ」までご連絡ください。</p> <p>●研究の概要・方法； お子さんの診療において必要であった、既にある情報（上記）を用いて、レントゲンスコアと治療強度や入院期間の関係性を評価し、重症化予測を早め、入院期間の短縮化などの可能性について検討します。</p>
問い合わせ先	研究担当者氏名：鶴川 慎一郎（医師） 国立病院機構舞鶴医療センター 小児科 住所：京都府舞鶴市字行永 2410 番地 電話：0773（62）2680 FAX 0773（63）5332